

令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立竹矢小学校)

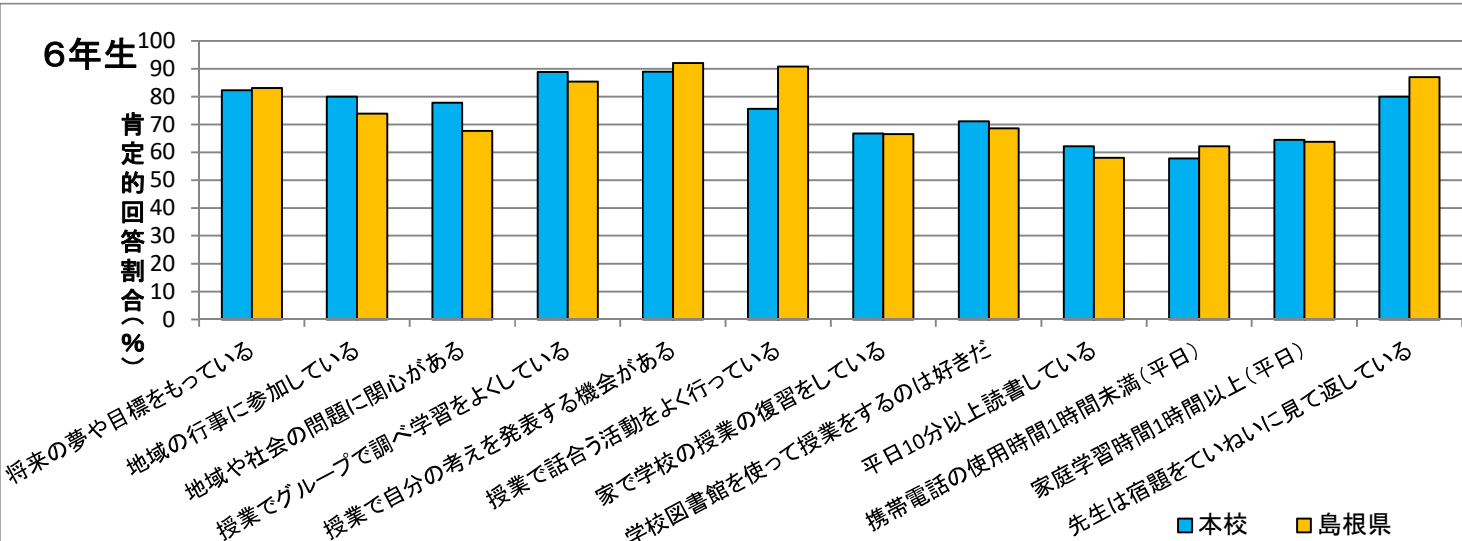
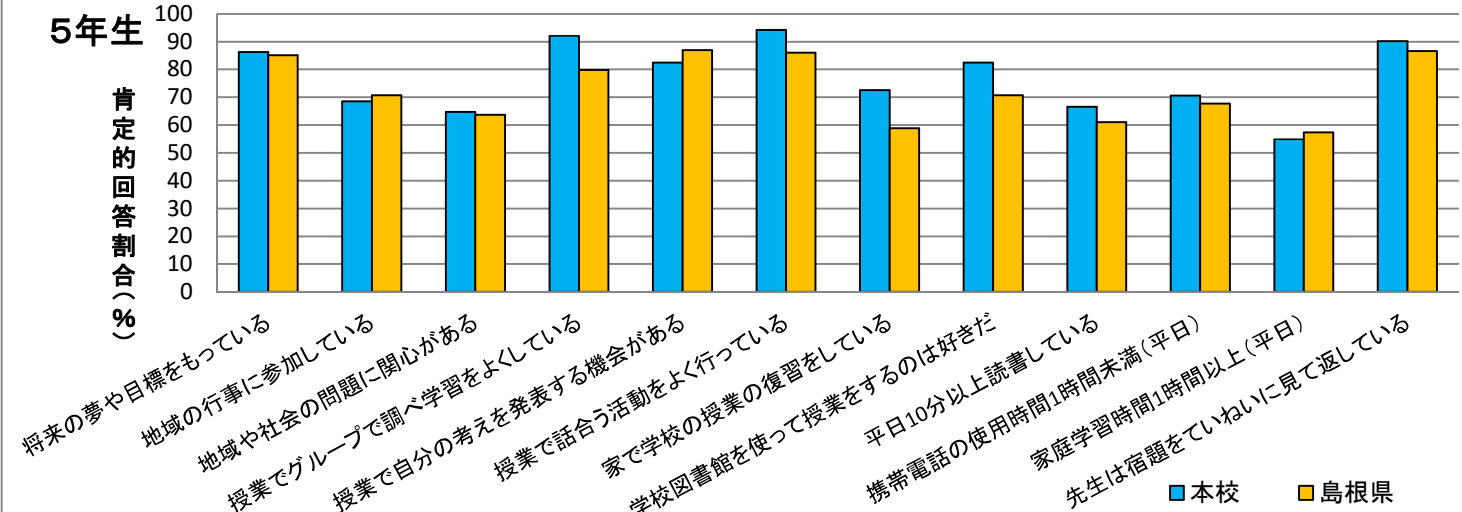
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○「話す聞く」「書く」「読む」「伝国」のすべての領域で県平均を4P以上上回っている。 ●既習漢字の中に習得の不十分なものもある。	・読書指導はもとより、音読や暗唱、意味調べ、要点まとめ、段落相互の関係を調べるなど、各単元を通して行う学習活動を大切にし、基礎的読解力を高める指導を継続する。 ・漢字は、意味を理解して文章の中で正しく使えるよう、書き取り会や帯タイム等を利用して定着を図る。
	算数	○「数と計算」「量と測定」などの4つの領域別にみても、「考え方」「技能」などの3つの観点別にみても、すべての項目で8P以上県平均を上回っている。 ●正答数度数分布をみると、上中位層と下位層との二極化がみられる。 ●図形の特徴や定義にかかわる問題の正答率が県平均よりも低い。	・習熟度別の少人数指導を積極的に導入し、理解に時間がかかる児童が「わかる」「できる」喜びを獲得できる授業を目指す。 ・計算会や帯タイム等で既習内容を繰り返し学習し、より確かな学力の定着を図る。
6年	国語	○「話す聞く」の領域の正答率が高い。 ●「読む」力、特に段落相互の関係を考えながら読むことに課題がある。 ●漢字やローマ字を正しく書く問題の正答率が低い傾向が継続している。	・残りの単元の中で、可能な限り、文章構成を意識して書く、話す、読む学習活動を取り入れていく。 ・漢字やローマ字については、書き取り会や帯タイム等を使って定着を図る。特に漢字については、意味を理解して文章の中で正しく使えるよう指導を進める。
	算数	○領域別にみると、4つの領域のすべてで県平均を上回っており、領域間の定着のバランスはよい。 ●「図形」領域の数学的な考え方を必要とする問題に弱さがみられる。	・学力向上支援講師を活用した習熟度別の少人数指導により、個々の定着状況に応じて支援を工夫し6年間のまとめに取り組む。

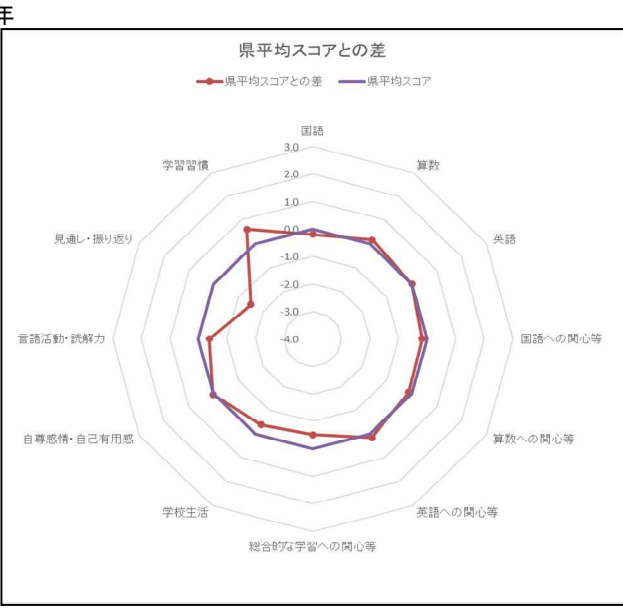
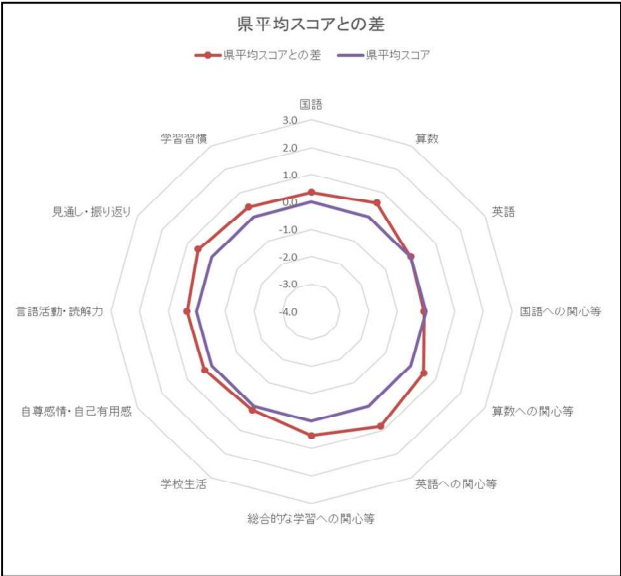
(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○算数、外国語、総合的な学習に対する関心度が高い。 ○グループでの調べ学習や、グループや全体での話し合い活動などの数値が高く、友達との関わりの中で学ぶ授業形態が確立しつつある。	・今後も調べ学習や話し合い活動を取り入れた授業を各教科で行い、学び合いの中で学力向上を目指す手法や支援などの探求を進めていく。
	家庭学習に関わる事項	○家庭で授業の復習に取り組み、学習内容の定着を目指す児童が多い。 ●宿題や自主学習を欠かさず行う児童が多い中、1日の家庭学習時間が1時間を超える児童は比較的少ない。	・自分でめあてや計画等を立てて家庭学習に取り組めるよう改めて指導し、学習時間の伸長を図る。
6年	授業改善に関わる事項	○読書や図書館活用学習への関心が高く、本や図書館に親しむ傾向が継続している。 ●授業の中での「めあて」や「振り返り」場面の設定についての数値が低い。	・毎時間、「めあて」や学習の流れ等を示した授業を行うことを再確認し、児童が見通しをもって学習に取り組んでいく姿勢を高めていく。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習に対する意識は向上しており、計画的に進める姿勢や学習時間に伸びが見られる。 ●平日でも3時間以上TV等を通してメディアと関わっている児童が35%以上いる。	・小学校での学習を振り返ったりまとめたりできるような課題を設定し、平日はもとより春休みの学習の充実に向けた指導を行う。 ・メディアとの関わりについてお便りや学級懇談会で取り上げ、家庭との連携を図る。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果



(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	66	71
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 51 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	47	62
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 45 人